

# 秦野市青少年指導員だより

発行 秦野市青少年指導員連絡協議会

編集 秦野市青少年指導員連絡協議会広報委員会

第48号



末広小学校での影絵公演 「血を吹くさんご樹」

## より楽しんでもらえる

### 「影絵」公演を目指します

昭和四十三年（1968年）に発足した秦野市青少年指導員連絡協議会は平成三十年、創立五十周年を迎えます。その間、独自の文化的活動として「大型紙芝居」・「影絵」の二事業を展開してきました。どちらも三十年以上前に、秦野の子ども達に、もっと秦野について知ってもらいたいという思いからスタートした活動ですが、その精神を受け継ぎ、さらに現代にマッチした形で発展していくべく、昨年四月、新たに立ち上げた文化伝承委員会の下で、活動を展開しています。

#### 大型紙芝居

大型紙芝居は、秦野市民話 研究家岩田達治先生の『丹沢山麓 秦野の民話』から原案をいただき、指導員自らが脚色し、絵コンテ、プチ紙芝居作りを経て完成させたものです。

単に大型なだけではありません。絵の具以外にワラや毛糸、木の皮や厚手の紙などを使い、また子どもたちを驚かせる立体的な仕掛けが組み込まれた作品もあります。そのため、一年以上かけてようやく一作品が仕上がるといった歩みでしたが、年を重ねる中、現在「そばの根はなぜ赤い」「やきめしころころ」「水無川

と弘法山」の三作品を所有しています。



さらに平成二十六年四月、青少年指導員OBの方々組織するソニア会が、長い年月をかけて作り上げてこられた紙芝居十一作品を譲り受けました。その結果、現在は「かさじぞう」「つるのおんがえし」「ねずみの嫁入り」といった定番の昔話から「青と赤のてんぐさん」「たぬきの手習い」「たのきゅう」といった少し考えさせるお話まで、変化に富んだプログラムを備え、地域の方々な要請に対応できるようになっています。

ぜひ、公民館や児童館等の行事の際には、各地区の青少年指導員にお声をお掛けください。スタッフ数名ですぐに駆けつけられるのが、この大型紙芝居の特長の一つです。

### 影絵を上演するには

影絵の場合は、大型紙芝居と違い、簡単に上演することができません。閉じられた空間を暗幕で覆い、舞台スクリーンを設置し、登場人物の型紙を操作し、音楽・台詞を流し、光りを照射する必要があります。一回の上演に、最低でも十人近い団員が揃わなければなりません。



末広小学校公演後のあいさつ

それを可能にしているのが、デジタル万能の現代に育つ子ども達に、昔ながらの灯りが持つぬくもりと優しさを伝えたいという、メンバー一人ひとりが抱く思いです。

協議会内で複数の役職・委員会の任に就きながら影絵担当を兼任される方、指導員勇退後も影絵スタッフとして残

られる方、そういった様々な方の思いがあつて、平日朝八時半からの末広小学校での上演会も可能になりました。

### 影絵の歴史

青少年指導員の発足は昭和四十三年。現秦野市長 古谷義幸氏も第一期のメンバーだったと伺っています。

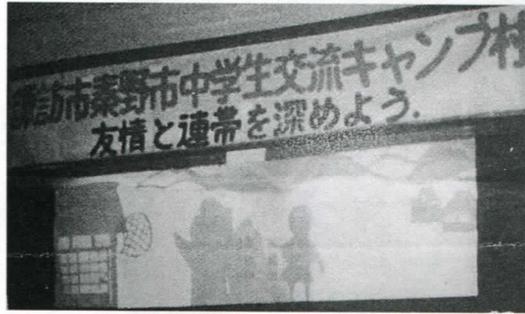
残念なことに、この影絵の取り組みがいつ頃始まったかは、はっきりしません。ただ第二作目の「一つ目小僧とせえの神」の製作を昭和五十六年にスタートさせたと記録にありますので、昭和五十年代の前半には、第一作目の「血を吹くさんご樹」が完成していたということでしょう。



昭和56年頃の上演風景

当時のメンバーの方々は、「一つ目小僧……」を制作す

るにあたり、作品の中で重要な意味を持つ、一月の「ダンゴ焼き」の行事に向いて、実際の太鼓や火の燃え上がる音をかセットレコーダーに録音されたそうです。また昔ながらの「はだの弁」を、何とか子ども達に残したいと、セリフの収録には苦心されたと聞きます。



昭和60年 諏訪市との交流キャンプ

### デジタルとの融合

好評をいただいた影絵活動でしたが、活動には舞台、スクリーン、ライトと大がかりな準備と人数を必要とします。いつしか器材は埃をかぶり、「はだのこども館」の片隅に置き忘れられたようになっていました。せつかく録音した

カセットテープの効果音も、聞き取れないほどに劣化してしまっていました。

だが、これだけの財産を埋もらせたままにしておくのは勿体ないと、声を掛け合った何人かの手で、平成二十年に復活上演にこぎつけました。そして平成二十一年にはデジタルによる効果音を背景に、有志メンバー全員で声優を担当し、渋沢のサウンドダック様のご協力をいただき、音源をデジタル化しました。



平成21年 音源収録風景

### 活動の定着

その後は、市内各地区公民館、児童館での夏のお楽しみ会やクリスマス会での公演の他、七月の秦野市文化会館事業協会主催サマーシアターへの出演、夏の交流キャンプ・

秋のお月見キャンプ時の野外活動センターでの公演、そして末広小学校一・二年生対象の年一回の(朝の会)定期公演と、様々な場面で声を掛けていただき、好評をいただいています。

メンバーも今は二十二名を数え、個々の依頼にも柔軟に対応できるようになりました。公演の他、月一回の委員会を持って、器材の修復、またメンバーの人形操作等の技量の向上を図っています。



平成21年 諏訪市との交流キャンプ

### 協議会発足五十年

昨年から、文化伝承委員会という重みのある委員会名を背負うことになり、ただ受け身のままの活動から飛躍していかねばという思いを強くし

ていました。そんな時、秦野市青少年指導員連絡協議会の創立五十周年を祝う記念式典を、平成三十年の二月に開きたい。ついては、そこで影絵の新作を披露してもらえないかという依頼を、現会長から受けたのです。

メンバーに諮り、時間的に余裕はないが、とにかく前向きに捉え、挑戦してみようと覚悟を決めました。

### 新作への挑戦

これまで、自分たちのレパートリーが幼稚園児また小学校低学年向けに片寄っていることに、少なからずもどかしさを感じてきていました。

だが見てもらう対象を小学校高学年から中学生にまで広げるとなると、題材の選定が難しくなってきました。

いかにも昔話といった他愛ないお話ではなく、幼いとはいえ、昔とは比較にならないほど情報に溢れた現代の子どもの心の、ああそうなのかと、すつと届くような物語が作れないものか。

それも、あくまで秦野にまつわる物語という前提があるのです。

正直、頭を抱えました。

### 「龍と娘」「おじき」

秦野には「龍と娘」と「おじき」(岩田達治著『丹沢山麓 秦野の民話』)という龍を題材にした二編の民話があります。ともに、龍に見初められた美しい娘が入水してしまふ悲しい恋物語であり、同時にある地名の由来にもなっています。それが気になっていたところに、本町地区の委員が、少し違うんだがと、自分が伝え聞いた話を紹介してくれました。

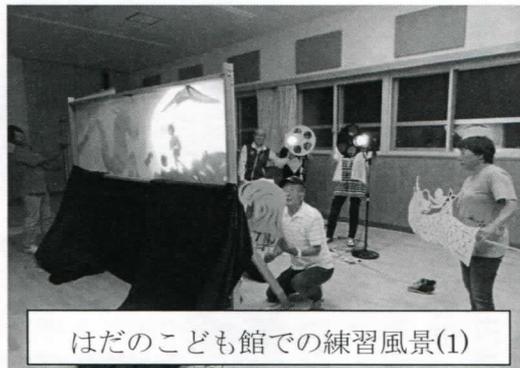
巷ではアニメ「君の名は。」が大ヒット中でした。ピュアなラブストーリーも良いじゃないかという思いでした。



登場人物・背景の型紙切り

昨年八月には脚本の第一稿が完成。脚本、美術、音響、照明、演出と部門毎に進めて

いくことを委員会に掛けたところ、噂を聞いてきたと、音響の専門職が突然のメンバー入り。さらに仲間に、画伯とも呼ぶべき人物や照明に精通した人物がいることを知って、一同びっくり。後は、一気呵成でした。



はだのこども館での練習風景(1)

### 「マナとタツ」

タイトルはシンプルに、登場するカプルの名前だけにしました。第一場から第八場までの一幕もの。エピソードとして、市内のいくつかの地名の由来が添えられます。

随分割ったつもりですが、全編二十五分近くになってしまいました。子ども達が見てくれるぎりぎりの長さかなと思っています。



はだのこども館での練習風景(2)

音源の収録には苦労しました。というのも、十三、四歳くらいの子と女の子があらまのまに思いをぶつける声を、もう子育ても終わろうというメンバーが演じようというのですから。「あれお前の声だったのか」とご主人に言われてしまったという、笑えない話もありました。



クライマックスの1シーン

それでも先行上演した「演サ連サマーシアター」では、演劇部の高校生達からお褒めの言葉をもらい、メンバー一同、あらためて勇気が……

### ぜひ観劇を

平成三十年二月三日(土)、秦野市文化会館小ホールで当協議会創立五十周年記念式典が開催されます。その第二部で「マナとタツ」を明日になく物語」を上演します。

また同月十七日(土)に本町公民館で行われる、五十周年記念フェスティバルでも、十時五十分から一階の和室会場で上演します。(十二時四十分からは、二階音楽室で大形紙芝居も上演します)

どうか一人でも多くの皆様に見ていただきたいと、願っています。



ラスト ふたりは何処へ?

秦野市青少年指導員  
連絡協議会  
創立 50 周年記念  
式典

平成三十年二月三日(土)、  
午後一時三十分より秦野市文  
化会館小ホールで、当協議会  
創立五十周年記念 式典が開  
催されます。

- 13:30 オープニング  
(秦野総合高校 合唱部)
- 13:45 式典
- 14:30 指導員活動報告
- 15:30 影絵上演  
「マナとタツ」

「指導員活動報告」からは  
一般の方の入場も可能です。



秦野市文化会館小ホールでの舞台

ぜひご来場くださり、はる  
か昔の秦野を舞台に展開する  
新しい物語世界をご鑑賞くだ  
さい。

秦野市青少年指導員  
連絡協議会  
創立 50 周年記念  
フェスティバル

平成三十年二月十七日(土)、  
午前十時より本町公民館で開  
催される当協議会創立五十周  
年記念 フェスティバルには、  
市内各地区で活躍する様々な  
グループにご参加いただき、  
以下の予定で日頃の活動の成  
果を発表していただくなか、  
多くの皆様と、気の置けない  
ひとときを過ごしたいと思っ  
ています。

- 二階 大会議室
  - 10:00 ~ 10:40  
吹奏楽 (本町中学校)
  - 11:30 ~ 12:00  
二胡演奏  
(大根・鶴巻地区)
  - 13:00 ~ 13:30  
フラダンス  
(南が丘地区)
  - 13:45 ~ 14:15  
ジャズダンス  
(南が丘地区)

- 14:30 ~ 15:00  
よさこい  
HADANO 乱舞「翔」
- 二階音楽室  
12:40 ~  
大型紙芝居  
(秦野市青少年指導員)

- 一階和室  
10:50 ~ 11:20  
影絵上演  
「マナとタツ」

- 「マナとタツ」  
〜明日につなぐ物語〜  
(秦野市青少年指導員)
- 12:10 ~ 12:40  
人形劇 黒田隆子と  
仲間の会

また、一階共用スペースで  
は、秦野市青少年指導員連絡  
協議会の創立以来五十年にわ  
たる活動を紹介する展示コー  
ナーを設置する他、市内六地  
区(本町、南、東、北、大根・  
鶴巻、西・上)の青少年指導  
員の特色ある活動を、子ども  
達に体験してもらうブースを  
設けて、紙工作や竹の器・箸  
づくり、バルーンアート、マ  
スキングテープ等を楽しんで  
もらおうと思っています。  
皆様、二月十七日(土)は  
どうかお気軽に、本町公民館  
まで足をお運びください。

指導員一同、心よりお待ち  
しております。

神奈川県  
青少年指導員大会

十一月十二日(日)、川崎  
市「高津市民館」で、第五  
十回神奈川県青少年指導員  
大会が「思いやり、その大  
切さを つなごう、心の  
あたたかさ」をテーマに  
開催されました。

首藤県副知事、福田川崎市  
長にご出席いただき、川崎市  
中原区・高津区の活動事例  
発表の他、小宮信夫氏の講  
演「青少年育成に望ましい  
地域をどう築くか」防犯ま  
ちづくりと絆づくり」を  
拝聴しました。



壇上での飯田さん

また、長きにわたる指導  
員としての功績を讃えられ、  
飯田久雄氏(西・上地区、  
六期十二年、現副会長)が  
優良指導員表彰を授賞され  
ました。おめでとうございます。  
来年は、平成三十年十一月  
十八日(日)に厚木市で開催  
されます。

編集後記

秦野市青少年指導員だ  
より第四十八号をお届け  
します。

私たち青少年指導員は  
この紙面で紹介しました  
ように、様々な活動をし  
ています。どうぞご声援  
下さい。

〈広報委員〉

- 瀬戸 英治 (本町)
- 渡邊 哲幹 (本町)
- ◎竹川伊佐子 (南)
- 細越 徹哉 (南)
- 内藤 聖樹 (東)
- 相原 博 (北)
- 田方 淳一 (大・鶴)
- 堀尾 吉晴 (大・鶴)
- 宮永 敏明 (西・上)
- 吉田トシ子 (西・上)
- 久保 光弘 (本部)
- ◎委員長 ○副委員長